

令和7年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター 第7号 令和7年7月18日発行

TEL:0229-32-3115

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1. 管内生育経過

調査地点	品種	区分	田植 (播種)日	7月10日調査結果					7月18日調査結果							
				草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)			
移植	田尻 (桜田 高野)	ひとめ ぼれ	本年値	5月3日	76.2	597.3	10.6	35.6	6.3	81.4	539.0	11.5	30.1	87.5		
			前年値	5月4日	79.0	576.9	10.5	37.0	9.8	84.3	551.5	11.5	34.8	166.0		
			平年値	5月5日	70.3	515.8	10.7	40.3	4.7	80.7	509.3	11.8	37.9	104.8		
			前年比・差	-1	96%	104%	0.1	96%	▲ 3.5	97%	98%	0.0	86%	▲ 78.5		
			平年比・差	-2	108%	116%	▲ 0.1	88%	1.6	101%	106%	▲ 0.3	79%	▲ 17.3		
			鹿島台 (広長)	つや姫	本年値	5月15日	74.5	458.2	11.1	39.7	0.2	81.9	428.2	11.9	38.6	1.0
	前年値	5月3日			71.9	499.2	10.3	39.4	0.7	79.0	459.2	10.9	38.6	4.8		
	前年比・差	+12			104%	92%	0.8	101%	▲ 0.5	104%	93%	1.0	100%	▲ 3.8		
	南郷 (和多 田沼)	金の いぶき			本年値	5月19日	71.7	501.5	10.9	38.8	0.4	82.7	458.6	11.8	37.0	8.7
					前年値	5月18日	71.8	511.9	10.1	37.5	0.8	81.8	516.8	11.0	32.7	4.3
					平年値	5月7日	67.6	538.2	11.4	37.9	0.8	82.8	468.9	12.4	34.4	22.0
	前年比・差	+1	100%	98%	0.8	103%	▲ 0.4	101%	89%	0.8	113%	4.4				
平年比・差	+12	106%	93%	▲ 0.5	102%	▲ 0.4	100%	98%	▲ 0.6	108%	▲ 13.3					
乾田 直播	小牛田 (北浦)	萌え みのり	本年値	4月7日	67.4	686.9	9.9	40.7	0.7	77.4	638.1	10.8	41.7	7.8		
			前年値	4月28日	51.6	408.5	9.0	42.2	0.1	68.0	487.8	10.2	43.9	1.8		
			前年比・差	-21	131%	168%	0.9	96%	0.6	114%	131%	0.6	95%	6.0		

※平年値は過去5年間の平均値。つや姫、萌えみのりはR6年からの調査。

ひとめぼれは、草丈・茎数はおおむね平年並みに生育していますが、葉色は平年に比べかなり低下しています。

つや姫・金のいぶきは、移植日が遅いため幼穂長は小さいものの、生育量は徐々に平年に近づいています。

今後予報通りの気温であれば、管内出穂盛期予測は7月29日前後となります(平年7月31日)。

2. 今後の管理について

今後も高温が続く予報です。登熟期の高温障害を軽減するため、葉色の低下が見られるほ場では、積極的に追肥を行いましょ。追肥晩限が近づいています！！

出穂前後は、高温時には「飽水管理」を行いましょ！！

表2 穂肥窒素の施用時期と影響

	穂数の 増加	1穂穎花数 の増加	1穂穎花数の 減少防止	登熟の 良化
幼穂形成期	○	◎	○	
減数分裂期		○	◎	◎

減数分裂期の追肥は登熟を良くするほか、特に高温時には、出穂後の葉色を維持することで基白粒などの高温障害の軽減につながります。

高温時に多い基部未熟粒は出穂期以降の葉色と高い負の相関関係にあります。右の図1が示すように、穂揃期の葉色が低い場合は、穂揃期に追肥を行うことで未熟粒の発生を低減することができます。

減数分裂期を過ぎた場合でも、葉色が明らかに低下し高温が続くような場合は追肥を行ってください。

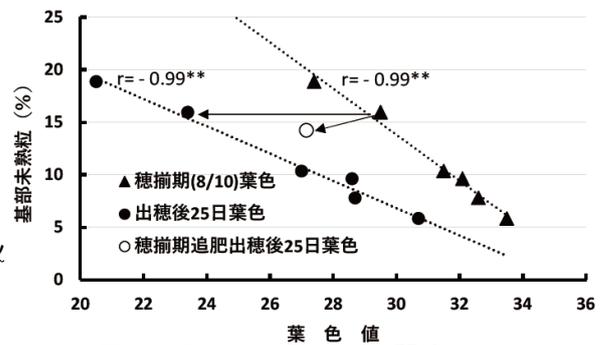


図1 葉色値と基部未熟粒の関係
(「普及に移す技術第99号」より)

○今後の生育ステージについて

表3 管内の田植始期～田植え終期移植ひとめぼれの生育ステージの予測

移植日	出穂期
5月4日	7/21-7/26
5月11日	7/25-7/31
5月19日	8/2-8/5

※幼穂形成期、出穂期は主稈葉齢予測モデル(普及に移す技術第80号)と7月10日発表の気象庁1か月予報気温を用いて予測。

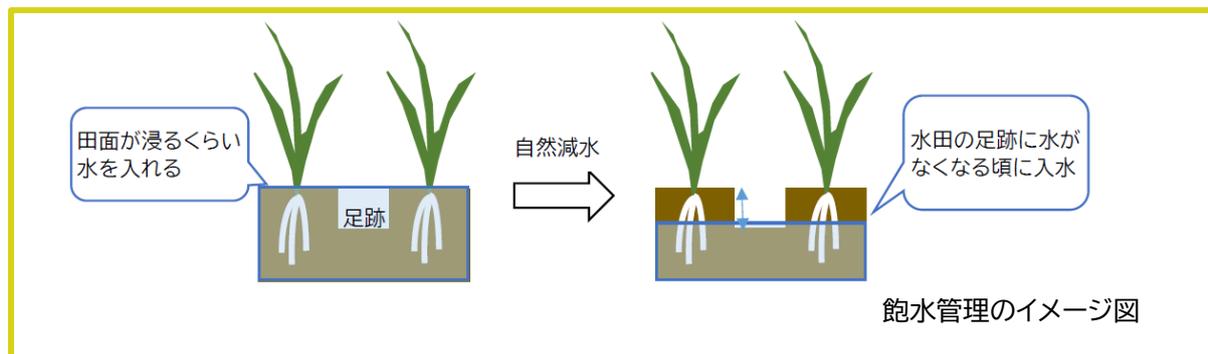
今後予報通りの気温の推移であれば、表3および管内の田植盛期から、出穂盛期は7月29日前後と予測されます(平年7月31日)。

○水管理

出穂前後は稲が水を必要とする時期で、この時期に水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられ、収量・品質に影響します。基本の水管理は、出穂10日後までは浅水管理、その後出穂30日後程度までは間断灌水(湛水と落水を数日おきに繰り返す)します。

<高温時の水管理>

高温時に湛水状態を続けると、夜間の水温が高くなり稲体を消耗させてしまいます。用水に限られる場合には、稲体の夜温を下げやすく、根の活力を維持できる「飽水管理」が有効です。



○今後注意が必要な病害虫

①斑点米カメムシ類

発生時期: やや早い 発生量: 多

7月18日発生予察情報でカメムシ注意報が発表されました！

【水田の管理】

水田畦畔の草刈りは終了してください！

出穂間際の草刈りは成虫を水田内に追い込み、被害リスクを高めます。

【水田の薬剤防除】

- ① 基本の防除体系: 1 回目は穂揃期、2 回目は穂揃期の 7～10 日後に実施しましょう。
- ② イヌホタルイ発生水田の場合: 1 回目の防除時期を早めましょう。1 回目は出穂始～穂揃期に、2 回目は穂揃期の 7～10 日後に実施しましょう。



図2 県内の主要種であるアカスジカスミカメ

②紋枯病 発生量: やや多 (県病害虫防除所発生予察第5号)

高温多湿が発生を助長するとされており、長期予報では発生しやすい気象条件となることが予想されています。昨年の発生量は多く、上位葉に進展し倒伏したほ場も見られましたが、前年発生ほどは伝染源が残っているため発生しやすくなります。

穂ばらみ期の発病状況に応じて、薬剤防除を実施しましょう。

紋枯病の要防除水準(収量5%減)

穂ばらみ期の発病株率

○ひとめぼれ: 18% ○ササニシキ: 10%



図3 紋枯病の発病株 (宮城県病害虫防除所 HP より)

農作業中の熱中症に注意しましょう！！

～熱中症予防のポイント～

- 暑さを避ける
- こまめな休憩と水分補給
- 単独作業は避ける
- 熱中症アイテムの活用

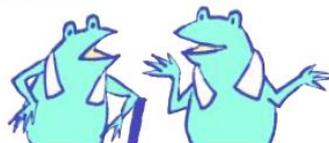
高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



(図の出典: 農林水産省熱中症対策パンフレット)

～無事に家に帰るまでが農作業です～